

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	定宗 由里	生徒指導主事	吉岡 欣哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『進歩 ～コロナ禍でも自分たちにできること～ 』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共に学びをつなげる力」	3	「課題を見つけ、追究する力」	1	「目標をもってやりぬく力」	2

取組のねらい

児童の主體的な活動の場としての児童会活動を通して、学校の課題に自ら気付き、課題を解決していくための方法や手段を考え、課題解決しようとする意欲・態度を育成する。

取組の具体的内容

児童会テーマを「進歩」に設定し、「コロナだからできないではなく、コロナでもできる」を目標に取組を行った。

児童会主催ミニ運動会

- 児童会執行部が、自分たちで学校を盛り上げていこうと「ミニ運動会」の企画・立案を行い、提案書を作成し、校長に提案した。
- 児童会執行部から、趣旨説明など各学年へ提案を行い、各学年でも「ミニ運動会」に向けての取組を行った。
- 声を出さなくても応援する方法はないかなどを考え、児童全員で学校を盛り上げていこうとする姿が見られた。
- ミニ運動会後には、児童会執行部による各学年への感謝を掲示板に設置するなど評価活動を行った。

作品展覧会に向けて

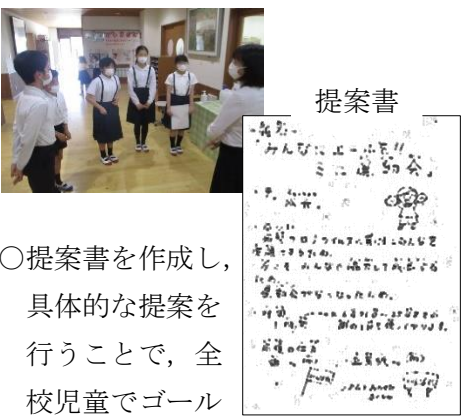
- 作品展覧会に向けて、全校児童だけでなく、見に来られた保護者の方を盛り上げるために、児童会執行部で入場門の作成を自発的に行った。

児童会執行委員会

- 委員会活動の前には、児童会執行委員会を行い、各委員会の代表と児童会執行部が集まり、今の学校の課題を協議し、その課題に対してどのような対応策があるのか、どの委員会が中心になって動くのかを協議したうえで、委員会に臨んだ。

取組の創意工夫

『企画・提案・実行・評価』



○提案書を作成し、具体的な提案を行うことで、全校児童でゴールイメージを共有し、その後の具体的な取組につなげた。

○児童が互いに協力し合い、認め合う中で、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自分のよさや可能性を発揮して自信をもつことにつながる。

みんなで力を合わせて競技を行っていました。これからもクラスで力を合わせてがんばろう。

取組の成果と課題

○児童会執行部が率先して、学校を楽しくしようとする活動を行い、それぞれの活動に対する評価を行っていくことで、「自分の学級・学校は、楽しく安心できる」と回答する児童が95%となった。

●高学年に、取組前後の企画・立案や準備、振り返りなどの活動の大切さを実感させ、周知し継承させていく必要がある。